

子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進

【2024年度事業目的】

子ども達が積極的に海に関わる上で、自らの安全を確保できる学習内容を確立し、水辺に関わる全ての人が支えあう「事故ゼロ」の社会をめざす。そのために、1) 子ども達への活動支援を通じて、自他の命を大切にする心身を育み、2) 誰もがライフセーバーである水辺の文化を創る。

〈中長期〉

上記展開を図る上で、30都道府県ライフセービング協会、全国149クラブによる教育実践は重要である。各学齢における指導内容等の構築を行い、学校や社会教育施設へ展開する。指導員養成を促進し、広く国民に向けたサポートー講習を通じて、自助・共助の意識を高めていく。



【2024年度事業目標】

1. 子ども達の海との接点や活動支援を通じて、自他の生命を大切にする心身を育む

- (1) ジュニア・ライフセービング（以下Jr.LS）における年間を通じた海辺での活動支援を推進していく。
器材支援や指導員派遣を通じ、e-Lifesaving（以下e-LS）を活用したプログラム提案等を行っていく。
指導員によるレポート、現地調査により成果測定を行う。
- (2) 指導者の連携、共有を図り、課題解決等を話し合う場を開催。参加者アンケートや議論の内容から見えてきた課題により成果測定を行う。
- (3) 社会教育施設（青少年教育施設等）と連携し、海やライフセービングと親しみのない層へも、ウォーターセーフティプログラム（以下WSP）を中心とした体験的学びを展開する。参加者や引率者アンケートを通して成果測定を行う。
- (4) Jr.LS活動の実態を調査し、結果から新たな課題を設定することを中長期成果測定とする。
「水辺の接点創出」と「安全への知識と技能を学び合える環境創出」の観点から、以下を事業目標とした。

2. 誰もがライフセーバーである水辺の文化を創る

- (1) 過去2年間、e-LSの実践研究を通じてICT教材としての有効性を立証した。引き続きコンテンツの拡充とPDCAを実行することで成果測定（延べ30万ユーザー）とする。
- (2) e-LSの広報を強化し、1人でも多くの国民に対し、水辺における自助の意識と知識、技能という“そなえ”を積極的に広めていく。高度化事業の図られている海水浴場やサポーター講習での対応実績を成果測定とする。
- (3) 全国30か所を候補として指導員養成講習会を開催し、90名の指導員を誕生させる。サポーター講習では年間14,000人の受講者数を目標とする。

【2024年度事業内容】

1. ジュニアライフセービング活動の充実

- (1) 時期：2024年4月～2025年3月
- (2) 場所：全国海水浴場、社会教育施設等
- (3) 対象：349名（小中学生）
都道府県ライフセービング協会、
加盟クラブ等
- (4) 内容：器材支援、専門委員の派遣
指導者研修の実施、実態調査
社会教育施設等でのウォーター
セーフティプログラムの実施

2. eラーニング新規コンテンツの制作と展開

- (1) 時期：2024年4月～2025年3月
- (2) 場所：全国
- (3) 対象：56,028名（小中学生、教員、指導者等）
- (4) 内容：新規動画の制作、
一部コンテンツの英文化
教育実践や教員研修の展開

3. eラーニングシステムの広報啓発の強化

- (1) 啓発動画の制作

4. 指導員養成及びサポーター講習

- (1) 時期：2024年4月～2025年3月
- (2) 場所：全国（東北・関東・関西・九州その他）
- (3) 対象：指導者養成；89名
サポーター；17,687名
- (4) 内容：指導員の養成、及びライフセービングの普及



海での体験活動
『ライフセーバーと海で遊ぼう！』@千葉県



e-Lifesavingを活用した
ウォーターセーフティ教室@兵庫県

1. ジュニアライフセービング活動の充実

※事業目標 1 -(1)~ (4) に関連

1-①a ジュニアライフセービング教室及び器材支援事業

- e-Lifesaving、JLAジュニアライフセービングバッジテストを活用したジュニアライフセービング教室の実施
⇒「全てのライフセービングクラブでジュニアライフセービングプログラムを！」を目標に、これまでジュニアライフセービング教室を実施する計画を持ちながら、器材やノウハウなどの問題で実施に至らなかつたクラブに対して支援をおこなつた。

- 公募による都道府県ライフセービング協会、加盟団体への支援

↓事業の意図と照らし合わせた公募

↓審査委員会を召集、10団体の企画提案書を採択

↓企画団体へオンラインと実地による支援及び現地調査

★報告書作成と精算

- 採択10団体（順不同）

<新規支援 4団体>	参加者合計	98名
・愛媛ライフセービングクラブ		13名
・屋久島ライフセービングクラブ		32名 (2回実施)
・滑川ライフセービングクラブ		21名
・八重津浜ライフセービングクラブ		32名 (2回実施)

- <通年型支援 6団体>

参加者合計	191名
・鴨川ライフセービングクラブ	48名 (2回実施)
・京都府ライフセービングクラブ	22名 (2回実施)
・小樽ライフセービングクラブ	31名 (2回実施)
・大分市ライフセービングクラブ	42名 (3回実施)
・葉山ライフセービングクラブ	48名 (4回実施)
・牧之原ライフセービングクラブ	50名 (10回実施)

2024年度支援団体

参加人数 317人

2023年度支援団体

参加人数 257人



60人増加



地方に分散している

1-①c ジュニアライフセービング教室及び器材支援事業

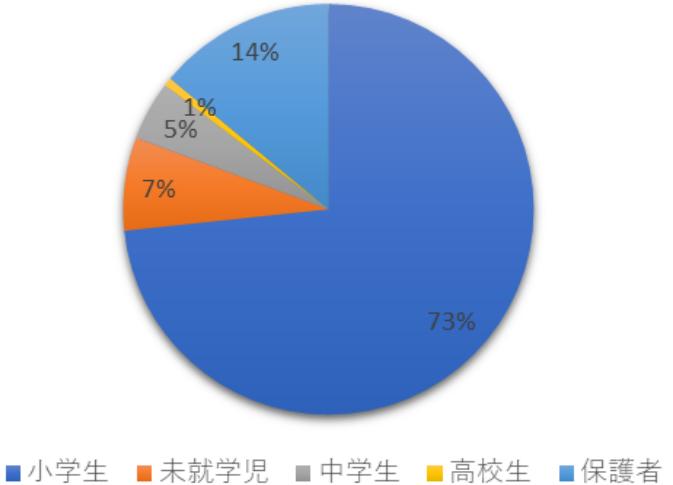
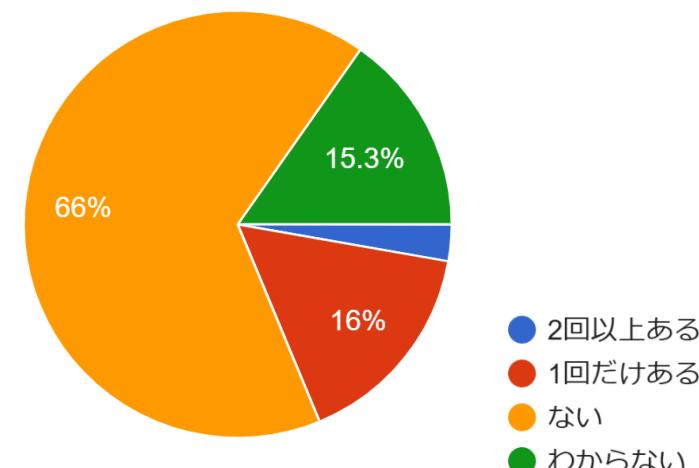
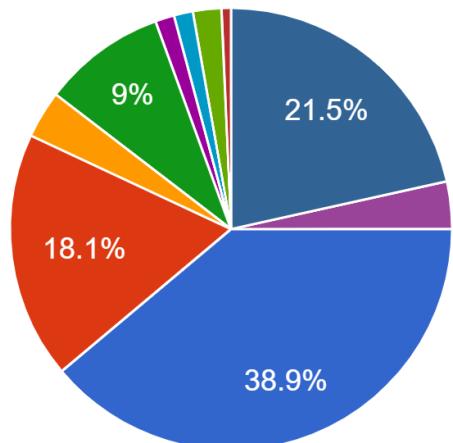
各団体実施の様子



1-①e ジュニアライフセービング教室及び器材支援事業

【参加者アンケート結果より】

参加者区分

Q1.あなたは過去におぼれた経験がありますか。Q2.水辺でおぼれないために一番大切なことはなんだと思いますか。

- あらかじめ必要な情報を調べておくこと
- あらかじめ水辺の危険な場所や状況、...
手足を使いながら浮いて助かる方法を...
背浮きで浮いて助かる方法を身につけ...
体力を無くさずに移動して助かる方法...
着衣（服を着た状態で）のまま水に落...
正しいフォームで泳ぐ力を身につけて...
はやすく泳ぐ力を身につけていくこと
- 長く泳ぐ力を身につけていくこと
- ライフジャケットの正しい着方を理解し、活用できる力を身につけていくこと
- 万が一の時の連絡先や連絡方法を知っていること（118／海上保安庁、119／消防、110／警察）

実施時期は8～11月。
参加者の多く（73%）は小学生だった。

Q2の回答は、
「事前に必要な情報を収集すること」
「ライフジャケットの正しい着用を理解し、
活用できる力を身に付けていること」
「あらかじめ水辺の危険な場所や状況を知つ
ておくこと」

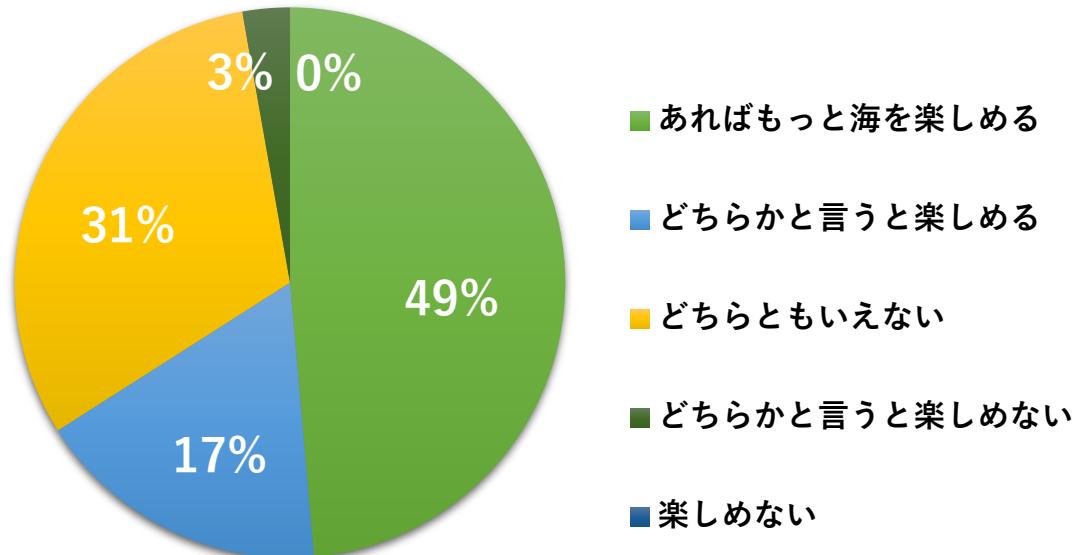
が多かった。



近年の水辺の事故や水難事
故防止の報道から、参加者が
未然防止策について学んでい
ると考えられる。

1-①f ジュニアライフセービング教室及び器材支援事業 【参加者アンケート結果より】

Q3. ウエットスーツがあると海での活動を楽しめると
思いますか。



<自由記述より>

- 毎年、水辺での事故で命を落とすニュースが報道されるので、改めて自分でできる行動をする、知識を身につける事は大切だと思いました。また機会がある際は、参加したいと思います。
- 小学校では着衣水泳の授業が4年生からだったので、今回低学年で参加できて良かった。年に何回か今回の様な教室があると子供達も忘れないと思う。



アンケート結果から、ウェットスーツは夏以外の海（水辺を含む）活動の幅が広がると感じ取れる。自由記述にある通り、学校での水泳学習の持ち方は様々であるため、学校教育と地域教育が連携していく必要性を改めて感じた。また、低年齢より、水辺の安全について学んでいくことにより、生活に活かせる力をなっていくと考えられる。

1-②a ライフセーバーと海で遊ぼう！冬休み in 館山

①企画名：『ライフセーバーと海で遊ぼう！』

②日時：2023年12月26日～28日

③場所：千葉県館山市 大賀海岸 ※宿泊場所 KAKERU UMI CLUB

④参加者：小学校3～4年生 24名 ／ 指導補助：高校生8名

⑤ねらい：①冬の海での様々なアクティビティを通じて、夏に限定されない「海」の素晴らしさを体感してもらう

②事故予防と適切な対処行動の観点から、心肺蘇生法やウォーターセーフティの知識や技能を身に付けてもらう

⑥内容：

1日目	
9時	東京駅丸ビル前集合（※トイレは済ませて集合）
	宿泊先に到着後開校式
	昼食
13時～15時	○水辺でライフセーバーと遊ぼう！ ・SUP→1班 ・シーカヤック→2班 ・ビーチアクティビティ→3班
	自由時間
18時	夕食
	○心肺蘇生体験 翌日のオリエンテーション 自由時間
22時	消灯・就寝

2日目	
6時30分	起床、散歩
7時	朝食
9時～11時	○水辺でライフセーバーと遊ぼう！ ・SUP→3班 ・シーカヤック→1班 ・ビーチアクティビティ→2班
	昼食
13時～15時	○水辺でライフセーバーと遊ぼう！ ・SUP→2班 ・シーカヤック→3班 ・ビーチアクティビティ→1班
18時	自由時間 夕食
	○レクリエーション 翌日のオリエンテーション 自由時間
22時	消灯・就寝

3日目	
6時30分	起床、散歩
7時	朝食荷物整理
9時	○ENJOY SUP & シーカヤック 最終日はライフセーバー達と海辺で 思う存分遊んで楽しい思い出作りをしよう！ (アクティビティと写真撮影などを予定)
	昼食
	閉校式 修了証授与
13時30分	宿泊先出発 バス
16時30分	東京駅丸ビル前解散



1-②b ライフセーバーと海で遊ぼう！～事前ガイダンスの様子～

- 日時：12月20日（土）
- 場所：成城学園内プール
- 指導：島田インストラクター
- 指導補助：
高校生のリーダー資格を有したライフセーバー 8名
- 内容：
正しいライフジャケットの着方、落水体験、
ライフセービングバックストローク等

“自分の命は自分で守る”ことを基本としたウォーターセーフティを学んだ。海という不確定要素の多い自然環境での活動に向かう前の大切な学びの時間となった。今後もライフセーバーと遊ぶプログラムの心構えとして「自助」あっての体験活動であることをプログラムの軸に位置付けた。



1-②c ライフセーバーと海で遊ぼう！～海での活動の様子～



海での活動は冬でも楽しめる内容にするため、あまり水につからないカヤックとSUPを選択した。また、ウェットスーツは人数分用意し、テントサウナも用意して（強風の為設置は見送った）防寒対策を行った。

初日から強風に見舞われた為、使用する海岸を変更し、安全に活動ができるように風の影響を受けやすいシーカヤックからニッパーボードに内容を変更した。ライフセービングプログラムらしく環境に適用し子どもたちが海での活動を楽しむ様子を見ることができた。

1-②d ライフセーバーと海で遊ぼう！～いのちに向き合う授業の様子～



初日の夜は心肺蘇生法の体験を行った。一次救命処置の重要性をしっかりと理解した後に、3人一組に分かれて、高校生によるサポートのもと、主体的に取り組んでくれた。万が一、身近な人が倒れた時に、自分たちに何ができるのか？を具体的に考え、その時に“行動できる人”になることへの想いを抱いてくれた。

1-②e ライフセーバーと海で遊ぼう！～宿舎での様子～

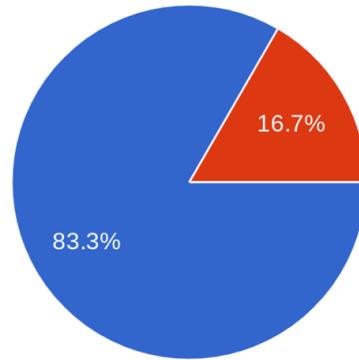


宿舎では自由な時間を多くとる「ゆとり」をあえて設けた。その間に生まれる高校生との交流や、仲間と語り合いながら貝を磨く時間は大変有意義であった。親元を離れて、多くの人の関わり合いの中で過ごす一つ一つ時間も、「海」が与えてくれたかけがえのない時間であったように感じる。

1-②f ライフセーバーと海で遊ぼう！～事後アンケートの結果と総括～

1 事前ガイダンスでライフジャケットの正しい着用の仕方は理解できましたか？

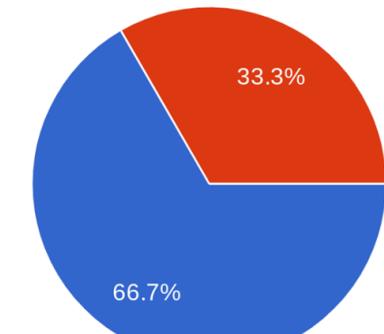
12 件の回答



- よく理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった

5 心肺蘇生体験で、胸骨圧迫のやり方は理解できましたか？

12 件の回答



- よく理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった



1-②h ライフセーバーと海で遊ぼう！～事後アンケートの結果と総括～

「ライフセーバーと遊ぼう」総括

はじめに、今回の企画は1年を通じて海に足を運ぶ機会をつくることを目的に繁忙期の夏ではなく、冬の12月を実施致しました。実施場所は千葉県館山市大賀海岸にて実施致しました。内容は必須参加の事前ガイダンス「Water safety」プログラム。館山市大賀海岸では、ニッパーボード・スタンドアップパドル・ビーチアクティビティの3つのアクティビティを体験。また、夜の時間には命の大切さを知るために心肺蘇生の重要性を知る体験をしてこの企画の質を高めております。

スタッフの構成は、サポートにジュニア指導者資格「リーダー」を取得した高校生ライフセーバーとベテランライフセーバーが責任者としてニッパーボード・スタンドアップパドル・ビーチスポーツを企画運営致しました。これにより、この企画はライフセーバーが支える企画となり、参加児童がライフセーバーたちと共に過ごす特別な企画になったと感じております。

最後に、今回の企画に参加した児童や指導サポートスタッフとして参加した高校生たちが今回の経験をきっかけにして、年間を通じて海に足を運び自然と触れ合う生活を送り、自然環境を守る大人になって欲しいと強く願います。

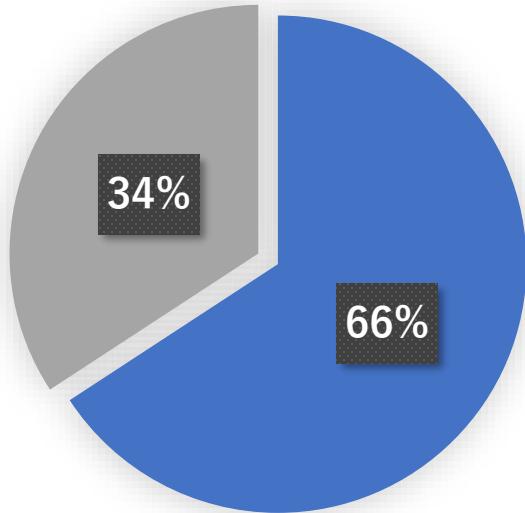
学校教育推進委員会
企画担当責任者 烏田貴史



1-③a Jr.教育実施調査の回答状況（2018→2024）

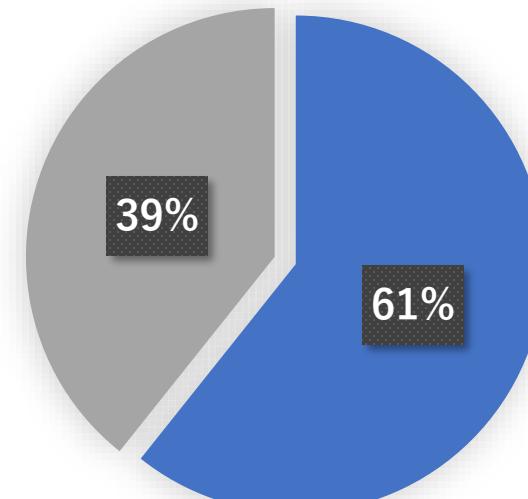
2018調査(N:76)

全体回答 76/136



2024年度プレ調査(N:168)

全体回答 168/175



	実施	未実施
全体回答 76/136	50	26

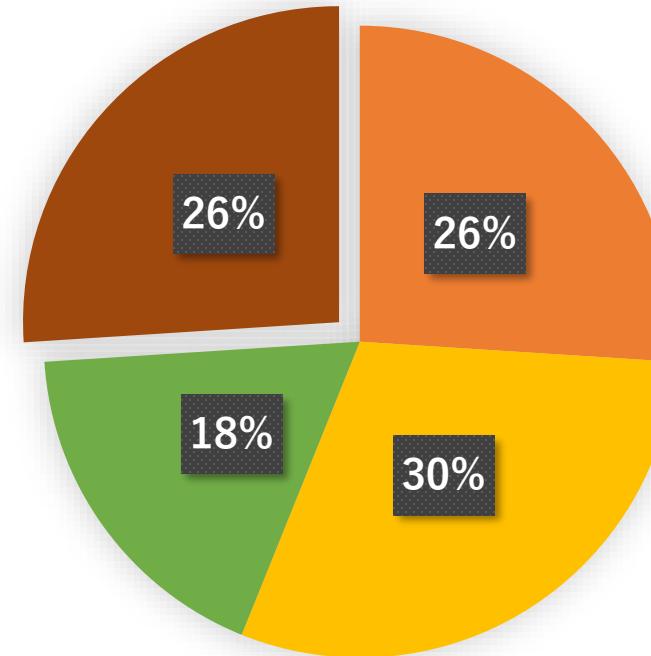
	実施	未実施
全体回答 168/175	102	66

*活動実績あり 78 クラブ

*活動実績（過去含む） 102 クラブ

1-③b Jr.教育実施調査の回答状況（2018→2024）

2024ジュニア・ユース活動実態調査（地域クラブ） N:123



回答 123/123

- 年間を通じて実施
- イベント、夏期限定実施
- 過去は実施していた
- 一度も実施していない

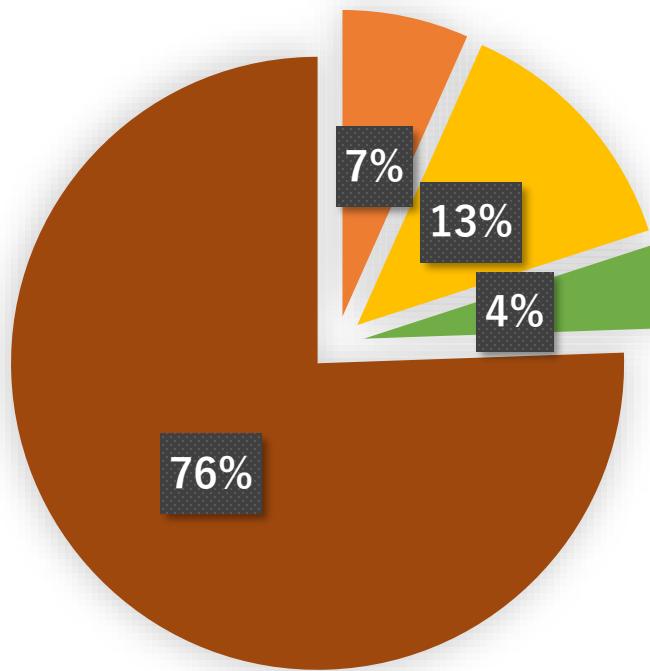
(内訳)

	年間を通じて実施	イベント、夏期限定実施	過去は実施していた	一度も実施していない
地域回答 123/123	32	37	22	32

* 宮崎県協会含む

1-③c Jr.教育実施調査の回答状況（2018→2024）

2024ジュニア・ユース活動実態調査（学校クラブ）N:45



回答 45/52

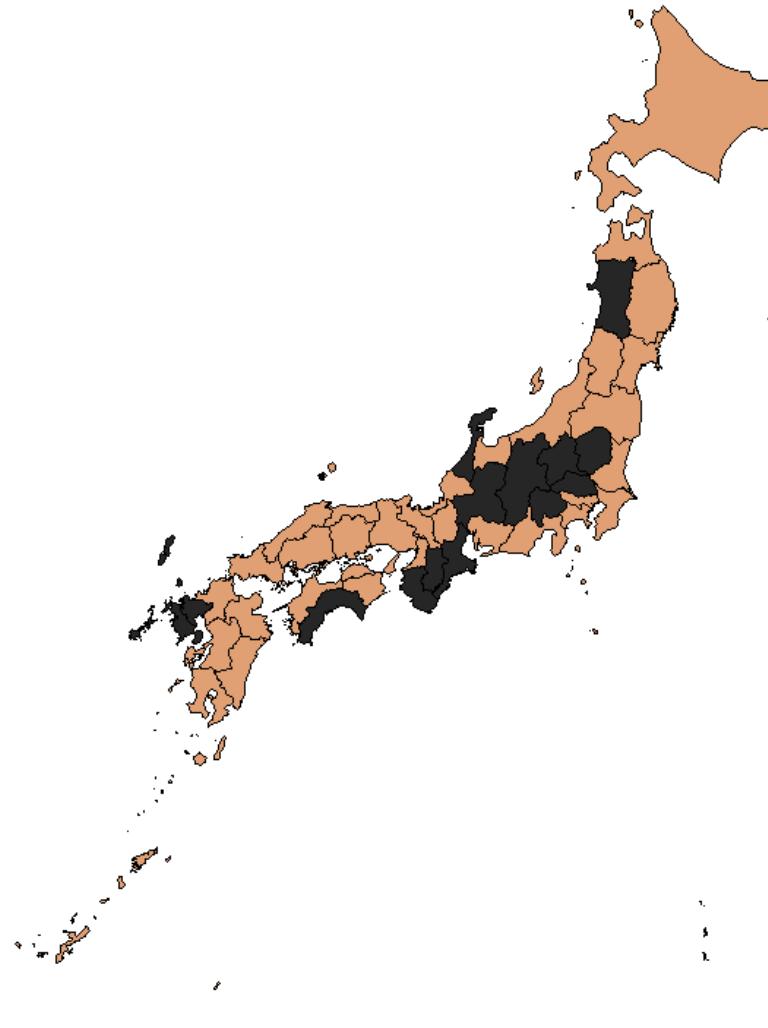
- 年間を通じて実施
- イベント、夏期限定実施
- 過去は実施していた
- 一度も実施していない

(内訳)

	年間を通じて実施	イベント、夏期限定実施	過去は実施していた	一度も実施していない
学校回答 45/52	3	6	2	34

1-③d Jr.教育実施調査の回答状況（2018→2024）

2024ジュニア・ユース活動エリアマップ ※過去実施工リア含む



ジュニア教育活動実態調査

33(2007) → 50(2018) → 78(2024)

102(過去実施クラブ含む)



175(2031)

1-③c Jr.教育実施調査の回答状況（2018→2024）

都道府県別：Jr.教育実施状況の推移



次回本調査に向けて

- 前回の調査結果と比べ、ジュニアライフセービングの実施率・数は大幅に増加した。→実施内容も多様化している？
- 学校クラブでのジュニアの実施は、教育機関が学生クラブに委託しづらいなどの課題もあると考える。→学生の海水浴場での活動はまた別としてある。一方学校が取り組みづらい課題をとらえる。
- 海がない都道府県へのアプローチをどのようにするかについては、計画中である。→長期的な調査の課題
- 175のクラブがジュニアライフセービングを実施している。実施数は増えたものの、その内容や質については十分に把握できていない。→実施内容やその効果検証を今後進めていく
- 幼少期からのライフセービングにおける重要な内容を今後検討し、年齢・発達に応じた指導の内容を提案する必要がある。→年齢別プログラムや、地域動向の把握を進める
- 指導者の実態についても今後検討が必要である。JLAが推奨するリーダ資格の普及と並行して行う必要がある。→取得資格の調査
- 指導内容における地域の実態も考慮する必要があると考える。東北地域は津波や災害が重視される一方、関東圏は離岸流など。→地域別の実施傾向や、文化背景に配慮したニーズの把握

1-③e Jr.教育実施調査の回答状況（2018→2024）

考察と今後の課題

- ・前回の調査結果と比べ、ジュニアライフセービングの実施率・数は大幅に増加した。幼少期からの水辺の安全に関する経験は貴重である。
- ・学校クラブでのジュニアの実施は、教育機関が学生クラブに委託しづらいなどの課題もあると考える。
- ・海がない都道府県へのアプローチをどのようにするかについては、計画中である。
- ・175のクラブがジュニアライフセービングを実施している。実施数は増えたものの、その内容や質については十分に把握できていない。
- ・幼少期からのライフセービングにおける重要な内容を今後検討し、年齢・発達に応じた指導の内容を提案する必要がある。
- ・指導者の実態についても今後検討が必要である。JLAが推奨するリーダ資格の普及と並行して行う必要がある。
- ・指導内容における地域の実態も考慮する必要があると考える。東北地域は津波や災害が重視される一方、関東圏は離岸流など。

2. eラーニング新規コンテンツの制作と展開

※事業目標 2-(1)に関連

2-① 2024年度に制作したもの

e-Lifesaving

Swim & Survive 日本
海
日本
PROJECT

守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全 Swim & Survive



- 事前学習
- みんなで考えよう！
- 動画で学ぼう！
- クイズ！
水辺の安全って？
- プール編
- 海編
- 川編
- 監視の基本編
- みんなで考えよう！
- 海でのできごと
- 離岸流ってなに？
- 川でのできごと
- ライフセーバーのいない海で
- 海でのできごと
- 約り中の事故多発
- ウォーターセーフティ
- クイズ選択編
- 安全なプール活動
- 助かる方法
- 助ける方法
- 実験動画
- ウォーターセーフティ編
- プール編
- 海基礎編
- 海応用編
- 川編

New



活用ガイド

「海のそなえ」水難事故に関する調査サマリーの結果を基に、マリンレジャーでの事故の約1/3を占める「釣り」と、その対象になりやすい高齢者のアクシデントをテーマとした動画を制作した。

「釣りのスタイルを考える」「万が一の時はどうしたら良いか」のテーマに対し、それぞれ3つのケースを示し、比較しながら、考えていく仕組み。

みんなで考えよう！
「釣り中の事故多発！」



2-①a みんなで考えよう！「釣り中の事故多発！」安全なスタイルは？ *New!*



ライフジャケットを身に付けていることが大切！

万が一、水に落ちてしまっても…



ライフジャケットを身に付けていなかつたり、正しく着ていなかつたりすると…



事故を未然に防ぐことを考えよう！

2-1b みんなで考えよう！「釣り中の事故多発！」万が一の時には… *New!*



自分だったらどうするか考えてみよう！



- ①飛び込んで助けに行く
- ②釣り竿で助ける
- ③ひも付きバケツで助ける

2-1c みんなで考えよう！「釣り中の事故多発！」万が一の時には… *New!*



①飛び込んで助けに行く
2人とも溺れてしまい、とても危険



②釣り竿で助ける
釣り竿が届けば安全に助けることができる



③ひも付きバケツで助ける
離れていても安全に助けることができる



ライフジャケットを正しく着ることが重要！



2-②a 動画で学ぼう！「プールでのウォーターセーフティ」

New!

e-Lifesaving

事前学習 みんなで考えよう！ 動画で学ぼう！ クイズ！水辺の安全って？ 資料集 応援メッセージ お問い合わせ

**守ろう！いのち
学び合おう！水辺の安全**
Swim & Survive

事前学習

- プール編
- 海編
- 川編

みんなで考えよう！

- 海でのできごと
- 離岸流ってなに？
- 川でのできごと
- ライフセーバーのいない海で
- 湖でのできごと

動画で学ぼう！

- 安全なプール活動
- 助かる方法
- 助ける方法
- 実験動画

**クイズ！
水辺の安全って？**

- ウォーターセーフティ編
- プール編
- 海基礎編
- 海応用編
- 川編

監視の基本編

釣り中の事故多発！

プールでのウォーターセーフティ

クイズ選択編

New!

学校で！家庭で！ 活用ガイド

※大人が児童生徒のプール活動中に、安全を守るために準備的・即時の行動の仕組や方法を紹介しています。

※セミナーリアでの講義の約1/2を組み、「泳ぎ」と、その運動にならかに、実際に泳ぐ者のアクションをテーマとした動画です。

※プールでのウォーターセーフティをどうやって始めたのかを、実際に指導者に教わらしむせながら解説しています。

※大人が児童生徒に対しクイズを通して学びを深めさせたい時は、質問を用意できるようになっています。

学校の先生やスイミングクラブの指導者向けに制作した研修動画。

ウォーターセーフティにおける実技の取り扱い内容、指導上の留意点や声掛け等、実践形式で分かりやすく解説。

動画で学ぼう！ 「プールでのウォーターセーフティ」

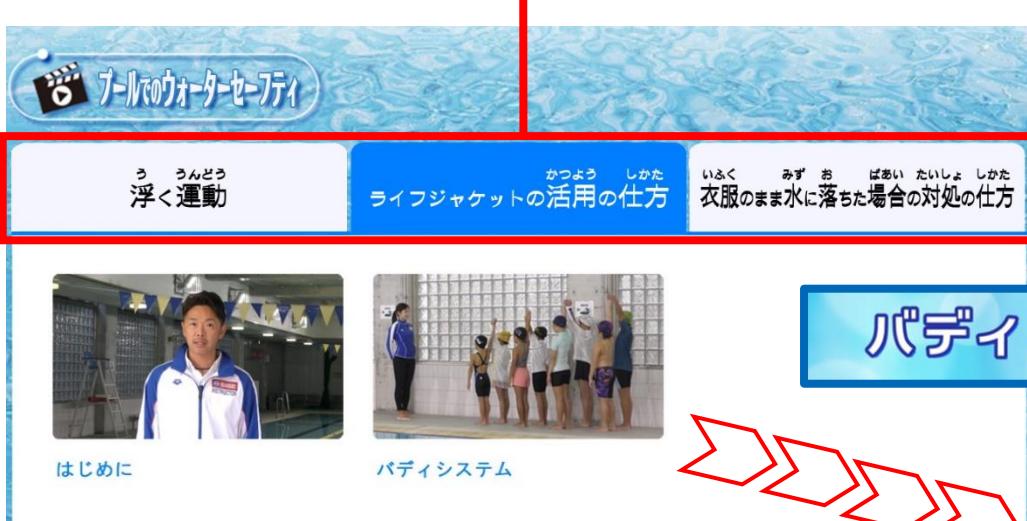


2-②b 動画で学ぼう！「プールでのウォーターセーフティ」

New!

浮くための活動

指導内容を3つに分類



指導者が意識してほしいポイント



バディシステム

子ども達がバディシステムを理解し、
お互いを意識し合うことが大切



2-②C 動画で学ぼう！「プールでのウォーターセーフティ」

New!

浮くための活動

プールでのウォーターセーフティ

浮く運動

はじめに

パディシステム

何も身に付けてないで浮く

浮力を使って浮く

ビート板クルージング

ボディローテーション

エレメンタリーバックストローク
(イカ泳ぎ)

かつよう しきた
ライフケットの活用の仕方

いふく みず お ぱあい たいしょ しきた
衣服のまま水に落ちた場合の対処の仕方




水中での動きの可視化



2-②d 動画で学ぼう！「プールでのウォーターセーフティ」 *New!*

プールでのウォーターセーフティ

う うんどう 浮く運動

かつよう しきた ライフジャケットの活用の仕方

いふく みづ お ばあい たいしょ しきた 衣服のまま水に落ちた場合の対処の仕方

ライフジャケットを身に付ける

ライフジャケットで浮く

ライフジャケットを身に付けてのボディローテーション

ひとり たす ま ほうほう 一人で助けを待つ方法

みんなで助けを待つ方法

プールサイドからの落水

らくすい

らくすい 落水からのエレメンタリー

バックストローク（イカ泳ぎ）

※うつ伏せのまま戻れないことがないよう
指導者、監視役は十分注意する



指導の進め方



指導のポイント



指導の注意事項



ハドルポジションの利点



2-②e 動画で学ぼう！「プールでのウォーターセーフティ」

New!

着衣での活動

プールでのウォーターセーフティ

う うんどう 浮く運動

かつよう しきた ライフジャケットの活用の仕方

いふく みず お ぱあい たいしょ しきた 衣服のまま水に落ちた場合の対処の仕方

ちやくい う 着衣で浮く

ちやくい およ 着衣で泳ぐ

ちやくい らくすい とき たいおう 着衣で落水してしまった時の対応

水着のときとの違いを感じるプログラム

着衣で浮く



手や足を大きく開いて、浮く姿勢をとる



着衣で水に落ちてしまったときの対応



着衣で泳ぐ



水面からの映像、水中での映像を通して、子ども達の体の動きや使い方を可視化

着衣での活動のポイント

平泳ぎやイカ泳ぎなど、水中でゆったり動く泳ぎのほうが浮くことができる